

# 環境学習共催講座「島田川冬の風物詩観察会」事業報告

講座名	ひかりエコ・自然塾 島田川冬の風物詩観察会		
日時	平成23年1月29日(土) 13:30~16:00		
場所	光市地域づくり支援センター 島田川	参加者数	51人

## 1 スケジュール

13:00~	集合、受付
13:30~13:40	開会、あいさつ・講師紹介等
13:40~14:40	講話
14:40~14:45	島田川へ移動
14:45~15:40	島田川フィールド観察
15:40~16:00	まとめ、アンケート、解散

## 2 活動内容(別紙地図参照)

光市地域づくり支援センターに集合し、主催のひかりエコメイトから開会の挨拶、光市環境部環境政策課長、環境学習推進センター、講師の紹介等が行われました。引き続き、講師の山本健次郎氏による講話のあと、島田川で実際に野鳥の観察を行いました。冬の風物詩となっているユリカモメなどの野鳥や自然環境の観察をとおして、環境保全の重要性を学びました。

概要：川とふれあい、親水意識を高め、水生生物や水辺の環境に興味や関心を深耕し、自然を敬愛する精神を醸成する。

### 【開会・あいさつ等】



開会のあいさつ、講師紹介が行われました。会場の後にはひかりエコメイトの活動を紹介するパネルなどを展示。

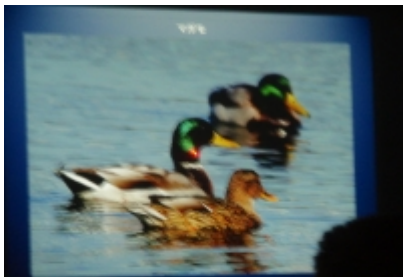
## 【山本健次郎氏による講話】



光市在住の鳥類研究家の山本健次郎氏の講話が行われました。

「昨日は、宇部の常盤公園で子どもたちを対象に観察会を行いました。常盤公園では野鳥と飼い鳥が一緒にいる光景が見られます。子どもたちは、池でバシャバシャ水浴びをしているカモを見て、「寒くないのかな？」と不思議がっていました。鳥には羽毛が幾枚も重なって生えていて、汚れや羽の間についていた虫などを落とすために水浴びをします。水はけもいいので、すぐに乾くようです。今日はフクロウとオオコノハズクのはく製を持ってきました。いずれも光市内で発見された死骸を譲ってもらったもので、たくさんの人に触れてもらいたいと思い、はく製にしたのです。羽毛をさわるとすべすべで中はふわふわで暖かいのが分かります。また、これら猛禽類は生態系ピラミッドの頂点にいる動物で、環境の度合いを教えてくれるものさしとされています。」

島田川で見られる野鳥について、スライドを見ながら説明。



- ヒドリガモ・・・比較的よく見られる。水草、コケ、やわらかい葉っぱなどを食べる。
- カルガモ・・・留鳥。幼鳥が親鳥の後をついて並んで歩いて移動するので有名な鳥。
- カイツブリ・・・上手に潜って魚を捕る。

- コサギ・・・サギの中で一番小さい。足指が黄色なのはコサギだけ。
- アオサギ・・・魚を食べる。人家で飼っているコイなども食べることがあるので、嫌われ者。
- カワウ・・・鵜飼いはウミウ。カワウは首が太いので適さないらしい。
- オオジュリン・・・ヨシの幹を割って中にある虫を食べる。
- コガモ・・・カモの中で一番小さい。
- スズメ・・・なじみの鳥だが、よく見るととてもかわいい。
- セグロセキレイ・・・水辺でよく見かける。日本固有種で外国にはいない。
- ハクセキレイ・・・顔が白い。シベリアから渡ってくる冬鳥。
- ムクドリ・・・虫や木の実を食べる。秋から冬には群れで行動する。
- ヒヨドリ・・・渡るのと渡らないのがいる。野菜や木の実など食べ荒らすので、嫌われ者。  
正月用の赤い実を全部やられたという話はよくあること。
- ユリカモメ・・・島田川で観察できる。昨年は1000羽くらい飛来した。20数年前は、3000羽くらい来ていたが年々数が減っている。カムチャッカの方で繁殖。渡り鳥。秋から南下してくる冬鳥。くちばしと足は真っ赤。
- ウミネコ・・・ずっと日本にいる。くちばしは黄色で先っぽに黒と赤色がある。足は黄色。

- カモメ・・・数が少ない。くちばしは黄色で、足が黄緑色。
- セグロカモメ・・・カモメの仲間で一番大きい。くちばしは黄色で赤いのがちょっと。足はピンク。対馬列島方面から渡ってくる。
- カワセミ・・・「空飛ぶ宝石」と言われている。メスはくちばしの上が黒で下が赤い。オスのくちばしは真っ黒で見分ける。
- トビ・・・死んだものばかり食べる。掃除やさん。
- ハシボソガラス・・・くちばしが細い方。にごった声で鳴く。
- ハシブトガラス・・・くちばしが太い方。すんだ声で鳴く。
- カワラバト・・・ドバトのこと。元々人間が飼っていた鳥。
- コチドリ・・・河口にいる。一年中いる。ゴカイなどが減ってきたので、数が減っている。
- ミサゴ・・・タカの仲間だけど魚専門。空中からダイブして魚を捕り、お気に入りのエサ場（杭など）でゆっくり食べる。
- マガモ・・・頭が緑色でとてもきれい。
- オカヨシガモ・・・オスはくちばしとおしりが真っ黒。
- ヨシガモ
- ウミアイサ・・・海ガモ 潜って魚を捕る。
- ダイサギ・・・シラサギの中で一番大きい。すらーっとして格好がいい。
- カワラヒワ・・・スズメ大。ピリリピリリと鳴く。群れで田んぼにいたりする。
- キジバト・・・キジ模様のハト。
- イソヒヨドリ・・・ヒヨドリの仲間ではない。岩の上の虫を食べる。
- ヒバリ・・・1年中いる鳥だが、今は夏ほど上空でさえまらないので見かけないかも。

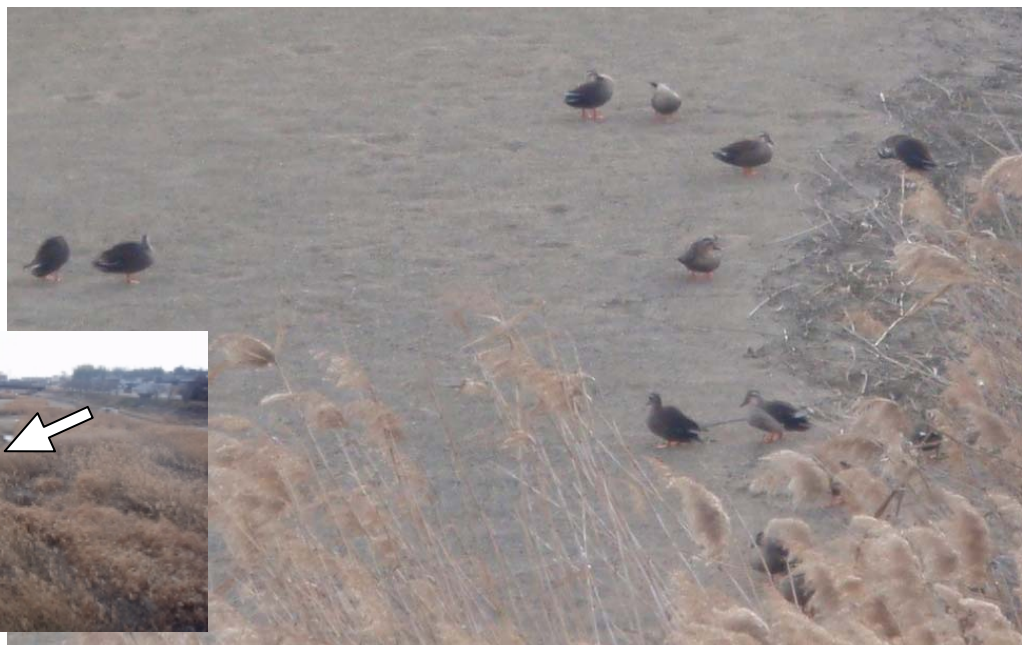


カモやカモメなどは川で休むとき、見通しのよいところで休むので、川原にヨシが繁茂しすぎるとあまりよろしくありません。ヨシはアシ。よしあしの語源。島田川も年々ヨシの範囲が増えているので、どうにかしたいが、なかなか難しい問題です。

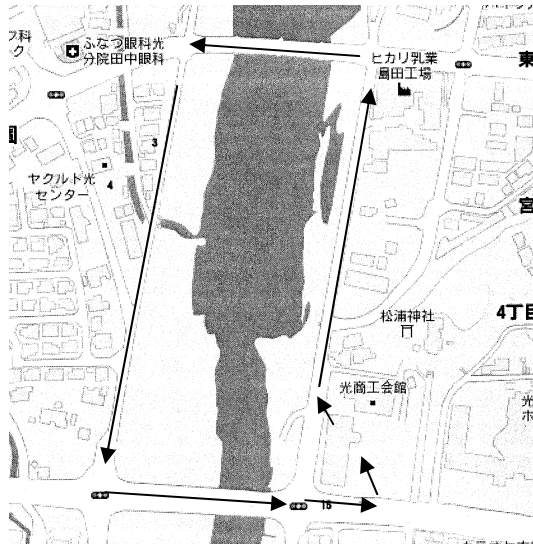
生態系ピラミッドの土台が豊かであれば大きなピラミッドが保たれます。鳥を見ることによって、自然の豊かさが分かると思います。

#### 【島田川フィールド観察】 観察、まとめ

カルガモ  
休憩中  
ヨシが繁茂  
しすぎ







参加者はそれぞれ双眼鏡を片手に、山本先生の解説を聞きながらフィールド観察を行いました。

出発するときに空を見上げると、ちょうどトビと一緒にミサゴが飛んでいました。さっきまで川の中州にたくさんいたウミネコやユリカモメたちは遠くへ移動してしまっていました。種類の違いを教えてくれる見本のように数羽残ってくれていました。ウミネコ、ユリカモメ、カモメ、セグロカモメの幼鳥が並んでいました。セグロカモメの幼鳥の足はかわいいピンク色で印象的。ウミネコはちょっと目つきが悪い。出発時に見たミサゴたちを見上げてみると、ハイタカが飛んできたので観察できました。カッコいい形でシマシマ模様。

### ○観察できた鳥

アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、ミサゴ、トビ、イソシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、カモメ、ウミネコ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ツグミ、スズメ、ハシボソガラス、ハイタカ、カワウ、キジバト・・・

### 【感想】

山本氏の講話では、山本氏がとても熱心に野鳥や自然を観察しておられることがよくわかりました。またスライド写真を見ながらの解説もとてもわかりやすかったです。今、解説を聞いた野鳥を実際に観察できたことがよかったと思う。参加者からは「普段、スズメとカラスを見る位だったが、このような鳥たちが生息していることに喜びを感じた。」「ヨシが鳥のためによいと思っていたがそうでもないとのことに驚いた。」「自然と生物等の共存が大切であると改めて感じたのでこれからはエコ感覚を持ちたい。」などの意見をもらいました。